

部活動改革と心田開発 第九回

〜心田と新田、人づくりと環境づくり〜 齊藤 勇

ポートカケガワ

本連載の第六回にて、日本初、中学生の文
化系・地域部活動「掛川未来創造部パレット」
（主催 NPO 法人 日本地域部活動文化部）
推進本部、略称「ポッカ」が今年七月から活
動場所を移転することを紹介しました。

移転先は、掛川駅北の中心商店街（旧・東
海道沿い）の老舗旅館の跡地を改装オープン
した、共創コミュニティ「ポートカケガワ」。
SNS のプロフィールに、「誰もが「なり
たい自分」を目指すまちづくりを。さまざま
な人が集い、滞在し、交流することで新た
な価値を生み出す、共創型コミュニティレジ
デンス」と紹介されています。

今回、ポートカケガワの創設者であり代表
の長濱裕作さん（大日本報徳社 個人社員）
をご紹介します。パレットとの共催も長濱さ
んからお声かけただいて実現しました。

子どもたちに「環境を遺す」

三人の子どもの親である長濱さん。
なぜ、ポートカケガワを創ろうと思ったのか、
その動機などお話を伺いました。

『四〇歳を越え、「子どもたちに何を遺（の
こ）していいのか？」を考えた時、お金を遺
すでもなく、物を遺すでもない。「環境」を
遺したいと思った。』

『子どもたちがやりたいことや、なってみ
たい自分の姿や生き方を、自由に選択できる
環境。そう考える背景に、子どもたちが学校
や家庭で出会う大人は限られている。生き方
価値観、働き方には色々なバリエーションが
あり多様。だからこそ、子どもたちが出会う
大人も、各地から様々な人たちが集まってく
るようにしたい。生き生きと働き、楽しく暮
らしている姿をリアルに感じることができ
る環境を創っていききたい。』



2023年7月 活動場所移転初日 長濱さんの話を聞くパレット部員
（ポートカケガワにて）

共に創るコミュニティ

ポートカケガワの構想について、長濱さん
は緻密な設計図を描いていません。

長濱さんの呼びかけに、様々な生き方・働
き方で活躍している多くの方々から全国から
集まっています。そこでの出会いから、共に
創っていくこと、長濱さんも想像できないよ
うな何かが起こること、新しい価値が生まれ
ることを期待されています。

子どもたちと大人の交流

パレットが移転して四カ月目になる十月、ポートカケガワに宿泊滞在中の黒田茉莉さんと部員たちが交流する機会がありました。生き生きとした姿、満面の笑み。

最初に簡単な自己紹介の後、子どもたちに何かを教えたり、自分の話を聞かせたりすることはありません。そこには、子どもたちが好きなこと、得意なことを、一つ一つ丁寧に聞き、表情と言葉で心からリアクションする黒田さんの姿がありました。子どもたちも自分が描いた絵を見せながら、自分から語りかけるなど会話が弾みます。



10月3日、滞在中の黒田さんとパレット中学生 交流の様子

直に接した子どもたちの心に刻まれる貴重なひとときになりました。離れた所から見て

いた私は、ただただ感動でした。長濱さんが子どもたちに遺りたい環境が一つ形になった瞬間のように感じました。

心田と新田

本連載のタイトルにもある「心田開発」心の田畑を耕すことの大切さを二宮尊徳から学んでいます。実際の田畑を豊かな土壌にするのも同じだけ重要です。新田開発、開墾はもとより、今も各地で休耕田や耕作放棄地が広がっていることが課題になっています。一度放棄され、手が入らなくなった農地の復活は一筋縄ではいかないことは容易に想像できます。雑草はもちろん、小石が混じり、固くなった土。まず小石を取り除き、土を柔らかくしていくことなど、一朝一夕には出来ません。これらの開発や復興は、農業だけではなく、空き家や廃校などのリノベーションも同様ではないでしょうか。

今回、旧・旅館の跡地をリニューアルして生まれたポートカケガワ。全国各地から多様な生き方、価値観、働き方で活躍する人々が集うことで、包摂性があり、柔軟なコミュニケーション

テイが生まれます。万象具徳、一円融合を具現化した環境であり、まちづくりの芽を育てる土壌になっていくことが想像できます。

報徳が根差す街掛川にて

掛川らしさ、それは報徳と生涯学習が根差す街と語る長濱さん。ポートカケガワの壁に刻まれたWIFIのPASSは「積小為大」パレットの中学生たちにとっても心に残る出会いが実現したように、一つ一つは小さな事であっても、積み重なり、混ざり合いながら実践していくことで新しい価値の創造が期待できます。



笑顔の長濱さん「積小為大」が刻まれるポートカケガワにて

子どもたちに遺りたいという思いを胸に挑戦を続ける長濱さんに敬意を表します。そして、心から感謝の気持ちでいっぱいです。